

今後の子育て支援に関する検討について

1 7月15日開催「岡山市総合政策審議会保健・福祉部会」の内容

(1) 議題

良質で持続的な保育サービスが提供できる体制づくり

(公立保育園と私立保育園の役割)

(2) 主な意見

- ・ 保育園運営費に占める市費の割合は、岡山市が突出しているわけではない。乳児保育を全園でやっていることなどは、全国に誇るべきことだ。
- ・ 子育ての部分に採算を前面に出してというわけにはいかないが、採算も無視はできない。
- ・ 公立保育園の役割と私立保育園の役割、そしてメリット、デメリットをはっきりさせる必要がある。
- ・ 公立保育園は、保護者のニーズにすばやく柔軟に対応できないというデメリットはあるが、現状の制度では、障害児などの対応については民間の園での受け入れが困難な点があり、公立では受け入れが可能という良さがある。
- ・ 十分民間でやっていける福祉サービスについては、税の使われ方を考えて、全部が全部ではないが、できるだけ民間に移管していくべき。
- ・ 岡山市の障害児保育の取り組み、特に拠点園制度は全国的にも誇れる施策だ。発達障害など、今は障害児の裾野が広がっており、現実的に保育園で預かった方が良いケースが多数あり、保護者にも拠点方式を望む声が多い。
- ・ 障害児とか、虐待やネグレクトのケースなどにおいて、子育て支援の内容を強化する必要があるが、これら子供の発達保証の部分は、主に公立が担っていき、一方民間においては、保護者にとって働きやすさのニーズについて、役割を果たしていくべきではないか。
- ・ 民営化できる公立保育園もあるし、また、どうしても公立でないといけない保育園もある。民営化できる条件を考えていくべきだ。また、例えば給食の部分を民間からの派遣で対応していくとか、ひとつの保育園の中でも民間に任せられる

部分があれば、部分的に任せていく方法もある。